



世界の自動車産業に貢献する

鹿児島発 たんそうかながた 鍛造金型高度化技術

日本ハードウェア株式会社鹿児島工場
代表取締役 小川 益治

弊社は、1989年に曾於郡大崎町に企業立地いたしました。主に冷間鍛造用の金型を製造しております。

金型の製造は、コンピュータ制御を伴う工作機械を使用したり、仕上げにおいては、竹箨に微粒なダイヤモンドを付けて手作業で金型を磨くなど多岐にわたります。金型は、製造ロットが1~2個のものを数10工程にわたった作業を経てつくることから、広範な技能分野における人材が必要になります。弊社にとって、社員の技能を積み上げることが重要であると考えており、仕事に納得して技能習得できる人材を採用するため、優秀な人材が輩出されるこの地を選んで企業立地しました。

冷間鍛造とは、金型と縦型・横型のプレス（ヘッター、ホーマー、マイプレス）を用い、金属を常温で塑性変形させて加工します。例えば、金属でボルトをつくる時、ボルトの形を与える金型に金属を入れ、高圧で押し込み製品の形に変形させて製造します。

弊社の金型は、主に自動車部品メーカーに納入しておりますが、現在の自動車部品メーカーは強い国際競争力を持っており、弊社の製品も直接及び間接的なものを含め、海外へ50%前後輸出し

ております。

最近の冷間鍛造金型への品質要求は日増しに高まり、品質維持や長寿命化への対応等にと厳しい環境にあります。弊社は、2000年に品質マネジメントISO9001を、2001年には環境マネジメントISO14001を登録いたしました。特に、創業当初より環境整備を重点的に配慮しており、清水排水やゴミレス等において、地域社会に受け入れられる工場づくりに邁進しております。同時に地球温暖化、石油資源等の枯渇、省エネ対策等が叫ばれるようになり、弊社も省材料、省エネ、短期間での金型製作、試作レス金型等の開発を要求されるようになりました。

これらの要求に応えるため、長寿命金型を開発するツールとして金型内部応力可視化装置の開発と、鍛造品の品質を評価するツールとしてメタルフロー可視化装置等の開発を行っており、それらの完成を間近にしております。これまでの開発は、鹿児島県工業技術センターに多大なる協力をいただきながら行ってまいりました。

鹿児島県工業技術センターは、弊社にとって技術開発の拠りどころであり、かけがえのない機関であります。更にご指導、ご協力お願い申し上げます。



鍛造金型



研究開発棟